

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山いずみ高等学校・教諭・赤座裕美子
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 教師に求められる問題発見・解決能力とコミュニケーションスキルについて
—教師と企業人との交流を通して—
- 4 研修機関等 株式会社インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

(1) 1日目 講演①②③およびディスカッション

①講師 株式会社MGG 代表取締役社長 牧田和樹氏

演題 「人間力について考えよう！」

会社の再建を通して、人を動かす秘訣は、自ら動きたくなる気持ちを起こさせることだと実感している。人の心を動かすのは人間力である。人間力は人間性・知性・意欲から成り、伝播するものだ。教師の人間力は生徒の人間力を育む。人間力を身に付けるためには、人との出会いを大切に思いやりのある人間関係を構築する、自身の経験と先人の知恵や他者との関わりから学ぶ、存在意義を確立し自己効力感を高めることが必要である。

②講師 YKK株式会社 副社長 小林聖子氏

演題 「自分らしく働く」

キャリアとは人の生き方そのものであり8割は偶然の出来事だ。思い描いていたキャリアと違うこともあったが、思惑違いや困難を乗り越え運を生かすことができたのは、自分の意思に忠実であり、置かれた立場を受け入れつつ努力と準備を積み重ね、オープンマインドで柔軟に出来事を受け止めてきたからではないか。何ができるか、何に価値を感じるか、何がやりたいかの視点で自分を知ることが、自分らしく働くことに繋がると考える。

③講師 株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充氏

演題 「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

18歳の時に訪れたバングラデシュで子どもの栄養失調を知り、問題解決に向けミドリムシの大量培養に取り組んだ。不可能と言われていたが挑戦し続け成功し、大学中に起業した。イノベーションを起こし成功する秘訣は、一番へのこだわりとチャレンジ精神だ。挑戦は失敗の連続であるが、挑み続けるにはメンターとアンカーを持つことだ。(出雲氏の場合、メンターはムハマド・ユヌス氏、アンカーはバングラデシュで購入したTシャツ)

(2) 2日目 アクティビティ研修

アイスブレイクの後、各6～7人のグループに分かれアクティビティ研修を行った。それぞれの活動の目標を達成するためには、チームワークとコミュニケーションスキルが求められる。板上のグループメンバーが落ちないように指示通りに並ぶアクティビティやブラインドテントというアクティビティは、メンバーの一部が目隠しの状態で行われ、より効果的なコミュニケーションや明確な指示、メンバーを信頼し互いにフォローし合うことの大切さを学んだ。最後にこれまでの研修を振り返り、「人が育まれるために必要な要素」について各グループで話し合いを重ね、全体で共有した。

(3) 研修を終えて

講演では、自己実現やキャリア形成など、生徒が自分の生き方や進路を考える上で参考になる話を聞くことができた。利他の心で社会に貢献する講師の姿勢から、教師として社会の一員として、豊かな人間力を身に付けるよう努力しなければならないと痛感している。富山経済同友会の参加者を交えた講演後のディスカッションも有意義であった。アクティビティ研修では、チームで問題発見・解決に取り組む上で、目標の共有と円滑なコミュニケーションが欠かせないことを再認識した。個々の力を生かしチーム力を高めるには各々の立場を考慮し支援すること、全体を見ながら自分の役割を果たすことも必要である。

研修を通して、年代・校種・職種の異なる方々と交流し多様な考え方に触れ、視野を広げる機会をいただいた。研修で得た学びや体験を学習指導や生徒指導における実践や生徒理解に活用するとともに、教師同士の連携や協働においても生かしていきたい。